

し、此處に來りて滞留するといふ、ナヨロウより此ヲツチンまで、舟路凡十日程、海上凡一百餘里なり、此處より西北に一日路の乗舟にて、ナツカウといふ所あり、此所は山丹國への渡海場にて、海上凡十里を隔つ、此瀬戸冬中に至れば、堅氷はりて陸地のごとし、此期に至れば、犬に橇を牽せて通行する也、シラヌシより此邊までを西カラフトといふ、又シラヌシより東はウルといふ處に大河あり、是より東北にノシカロナイといふ所あり、此處にも大河有、此河上に池有て、蝦夷舟にて土人渡海して運送を達すといへり、此ノシカロナイの東北にシレトコといふ處あり、此處海岸より沖の方へ出たる山崎有、シラヌシ在ノトロ邊より此邊まで、蝦夷土人多く徘徊し、産業に力を盡すといへり、又同島西北の地タライカといふ所は、西北第一の繁昌の所にて、是より山奥にヲクカタといふ所あり、此處に蝦夷土人多く住居たる大村あり、蝦夷地に稀なる山中に村民あるは、日請よく、土産能土地よき所と云はれたり、仍而通路の土人も少々故に、産物も出すといへり、此邊を北カラフトといふ、扱又此島の風土は、松前所在島の氣候に等しき地也といへり、北極土地四十六度より四十八九度に至る也、土人の産業獲物は、ソウヤに近きはソウヤへ運送し、山丹にちかきは山丹に運送して交易するに、風俗も山丹に交易する土人は、山丹風俗に移り、ソウヤへ交易する土人は、日本蝦夷土人のまゝ也といへり、此土地の風俗に、家毎に犬を數多飼置、夏中は舟の綱手を牽せ、冬中は橇をひかせ、犬をつかふ事牛馬のごとくす、冬雪中にいたり漁獵も不足して、糧盡れば、其飼置たる犬を第一の食用に達すると也、此島の廣き事、松前在所島より勝れたる大嶼なり、日本國より遙に大なり、松前所在島と、此カラフト兩島にては、凡日本國三増倍に近かるべし、○中略

## 日本人カラフト島に漂著の事

松前家舊記、漂流船の吟味留書を視るに、攝州西宮の船頭徳五郎といふもの、難風にあひ漂流し